

2008年7月31日

大分市長 釘宮 磐 殿

介護保険を良くする大分の会
代表 谷川博文

介護保険制度の改善を求める要望書

市民の命と健康、暮らしを守るために、日々ご尽力いただいていることに、敬意を表します。

自公政治のすすめる「構造改革」路線による税制や社会保障の連続改悪などで、暮らしは年々大変になっています。また最近の原油・物価の高騰は、市民生活を直撃しています。

こうしたなか、介護保険制度第4期改定のための策定作業が開始されています。つきましては、市民の生活実態を直視していただき、命と健康を守り、安心できる介護保険に改善するために、下記事項について善処していただくよう要望いたします。

記

(政府・厚生労働省へ)

- 1、国庫負担の引き上げと介護報酬の引き上げで、本来の目的である地域で介護を支えられる体制の再構築をおこなうこと。
- 2、介護保険料の算定は、本人所得を基本にするよう改正すること。
- 3、介護認定基準を実態に即したものに改正すること。
- 4、介護療養型ベット全廃などの医療費適正化計画を撤回すること。

(大分県政へ)

- 1、医療費適正化計画を中止し、地域ケア整備計画は上からの押し付け計画ではなく、関係者の意見を聞き、高齢者・家族が安心して介護施設などを利用できる計画に見直すこと。
- 2、介護保険料、介護利用料への県独自の助成をおこなうこと。

(大分市へ)

- 1、介護保険料の減免制度を拡充し、申請を簡素化すること。利用料への助成をおこなうこと。
- 2、介護計画策定は関係者の意見を反映させること。策定委員会は全面公開とすること。
- 3、特養ホームなど介護入所施設を新設・増設し、待機者をなくすこと。
- 4、車いす、介護ベットなど福祉用具の制限緩和判断基準を拡大すること。
- 5、配食サービスは、利用者の要望を尊重した支給要件に緩和すること。

以上